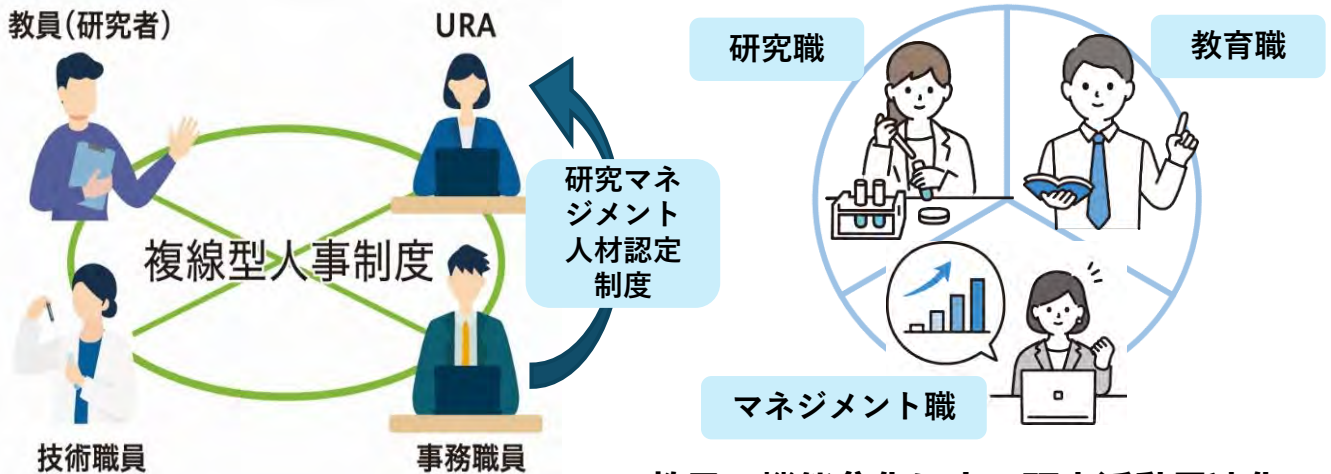


TOPICS
1

取組4「研究力強化とイノベーション創出に向けた人事戦略」についての紹介

岡山大学長期ビジョン2050「地域と地球の未来を共創し、世界の革新に寄与する研究大学」の実現のため、J-PEAKS事業では4つの取組を進めます。今回は、4つの取組のうちの取組4についてご紹介します。

研究力強化とイノベーション創出に向けた人事戦略



■ 複線型人事制度

■ 研究マネジメント人材認定制度

■ 教員の機能分化による研究活動最適化

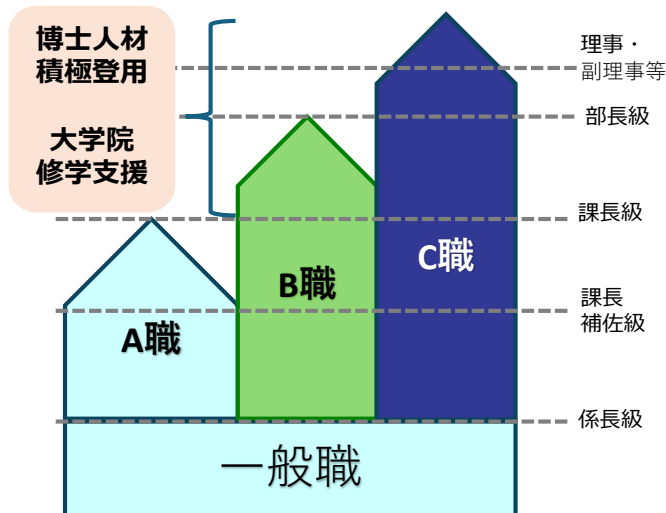
人的リソース最適化による
組織風土改革

取組4では、既成概念にとらわれない戦略的な人事戦略により、研究界の国際トップサークルを先導する研究者と、知識によって社会を変革するナレッジワーカーの育成・輩出を推進します。

① 人的リソース最適化による組織風土改革

研究者・高度専門職員・技術職員・事務職員が採用時の職種に縛られることなく、能力や適正を相談・審査等の上、職種間の異動を可能とする「複線型人事制度」を構築し、研究系人材の最適配置を推進します。さらに、URA(リサーチ・アドミニストレーター)業務の内在化や事務職員を専門人材化し、URAなどへの登用促進を目的とした「研究マネジメント人材認定制度」など、社会の変化に迅速に対応できる柔軟なキャリアプランを実現します。

また、教員を得意分野や適性などに応じて「研究職・教育職・マネジメント職」に分類する「教員の機能分化による研究活動最適化」により、教員の人的リソースを最適化し、大学全体のパフォーマンス向上などを図ります。



■ 事務職員の機能分化と高度化

博士人材の活躍促進
職員の高度化



多面的評価と
年俸制反映



■ URA機能強化と適正評価

法人経営を担う専門人材にとどまらず
社会変革を起こすURAへ“進化・加速”

②評価に基づくリソースの傾注

厳格な業績評価に基づく高い処遇と研究専念環境を保証する「特区卓越研究者制度」、同様に厳格な評価により、優秀な研究者を早期に教授などに昇任する「スーパーPI制度」、優秀なシニア・ミドルの雇用を継続する「シニア・ミドルトップ研究者制度」等、トップ研究者集団の形成を推進する様々な施策を展開します。さらに、学長のリーダーシップのもと、人材と予算を研究特区に投入。本学の強みある「最重点研究分野」に対して重点的、かつ戦略的にリソースを傾注します。

③ナレッジワーカーの育成

知識から新しい価値を創造することのできるナレッジワーカーや博士人材の活躍を推進するため、「大学院修学支援制度」や「高度専門職制度」などを新たに設けました。

「大学院就学支援制度」では、本学の大学職員（事務職員、技術職員、図書職員など）を対象として、本学大学院への進学、修士と博士の学位取得を金銭面、労務面なども含めて総合的に支援し、大学法人経営の中核を担う博士人材の育成・活用を推進します。

「高度専門職制度」では、URA等の研究系高度マネジメント人材を研究力向上戦略に基づき、適正配置します。さらにURAに対して、多面的評価を実施し、その業績を厳格に評価することで、法人経営を担う専門人材にとどまらず、社会変革を起こすようなURAを社会とともに育成します。

また現在、教員が担っている業務の一部を高度専門人材などが担い、研究時間を確保します。

○那須保友学長のコメント

既成概念にとらわれない「教員の機能分化による研究活動最適化」や「複線型人事制度」といった大胆かつ戦略的な人事戦略によって、人的リソースを最適化し、組織風土を改革します。そして、厳格な業績評価に基づいたリソースの傾注を行うことで、本学の強みの分野に対して重点的に強化、さらに次世代研究群などの研究力をより向上させます。さらに、知識により社会変革を起こすナレッジワーカー人材を育成・輩出・定着させ、研究・イノベーションの叡智で「地球と生態系の健康 (Planetary Health)」の実現と、そのための社会変革を目指します。



TOPICS

2

わが国の研究力の基盤を支える液体ヘリウムの利用促進・安定供給に向けて11大学・高専等と意見交換を実施

研究活動の必需品である液体ヘリウムの利用促進と安定供給等に向けて、7大学、2高専、1研究機関と6～7月にかけて意見交換を実施しました。

他機関への液体ヘリウムの供給で先行する大学をはじめ、複数の大学・研究機関等との意見交換や視察を実施。得られた情報をもとに、本学の運用の強化促進と地域のハブとしての供給を進めます。

近隣大学や高専、研究機関、企業等での実験に液体ヘリウムを利用促進し、J-PEAKSの事業で推進している研究力強化のハブを実現させます。

岡山大学 研究・イノベーション共創機構



参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id13415.html

TOPICS

3

楊家教授(ヘルスシステム統合科学学域)がAMED「令和6年脳神経科学統合プログラム(個別重点研究課題)」に採択

学術研究院ヘルスシステム統合科学学域認知神経科学分野の楊家教授が、国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)の令和6年「脳神経科学統合プログラム(個別重点研究課題)」領域2(ヒト高次脳機能のダイナミクス解明)に採択されました。

楊教授は「神経生理学とレイヤーfMRI技術の融合による超階層な脳機能ダイナミクス計測法の開発」という研究開発課題名のもと採択。J-PEAKS事業でも、ヘルスケアを含めたWell-beingの向上を戦略的に進めています。今後の楊教授の研究活動にご期待ください。



参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id13437.html

TOPICS

4

わが国初の試みである「共生型連合体」のキックオフミーティングを開催～国家戦略特区における大学群が協働して社会変革を推進へ～

国家戦略特区の中でスーパーシティ国家戦略特区とデジタル田園健康特区に関係する大学である山梨大学、筑波大学、大阪大学、岡山大学で「共生型連合体」を形成。そのキックオフミーティングを都内で開催しました。

これまで個々でつながっていた関係者が一堂に会し、ビジョンの共有や連携強化、今後の活動拡大に向けたあり方など、活発な意見交換、議論のもと行われました。

本学のJ-PEAKS事業における本取組は重点課題であり、大きなウェイトを置いています。豊かな生活を過ごすための社会変革を大学群が創り出す、わが国初の共生型の取組です。参画大学群にご期待ください！

J-PEAKS × 岡山大学

共生型連合体



参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id13494.html

TOPICS
5

SPring-8-岡山大学利用連携Workshopを開催～世界最高性能の大型放射光施設SPring-8の利用が身近に、そして研究力・イノベーション共創強化へ～

SPring-8-岡山大学利用連携Workshop「大型放射光施設SPring-8を利用してみませんか？」を開催しました。

ワークショップでは、本学が始める利用分析サポートサービスの紹介やSPring-8の概要と学内外利用者の活用例を発表。さらには個別利用相談なども実施しました。

J-PEAKSでは、わが国が世界に誇る研究施設を生かし、かつその取り組みを広く横展開することで、研究基盤の整備強化や研究力向上・イノベーション創出を図ります。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id13457.html

TOPICS
6

“聞こえる”から生まれるWell-being「産官学多職種連携で挑む高齢者ヒアリングヘルスの向上方略」を公表

「音が聞こえる」ということは当たり前のことではなく、また健康な人でも老いとともに、その当たり前が崩れてしまいます。「ヒアリングヘルス」は、私たちの人生のWell-beingにおいて、重要な点です。定例記者会見において、岡山大学病院聴覚支援センターの片岡祐子センター長

補佐・准教授が、デジタル田園健康特区に指定されている岡山県吉備中央町での活動。さらには、そこで得られたノウハウ等を全国に横展開していく取り組みを発表しました。

本取組は、本学のJ-PEAKSの取組のひとつ「イノベーション創出によるWell-being社会の実現」(取組2)に直結するものです。「産官学多職種連携で挑む高齢者ヒアリングヘルスの向上方略」が、社会変革の種となり、地域とともに育み、そして社会を変えるものになるように、取組を強化推進していきます。ぜひご期待ください。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/up_load_files/press_r6/press20240828-1.pdf

TOPICS
7

総合技術部第2回テクニカルリサーチャー(TR)辞令交付式を開催～地域中核・特色ある研究大学：岡山大学として基盤強化と次世代技術人材の育成を強化促進～

本学総合技術部は、第2回目となるテクニカルリサーチャー(TR)の辞令交付式を開催しました。TRは本学独自の取り組みで、大学院生を技術補佐員として雇用し、総合技術部において技術業務および教育支援業務等の補佐を行いながら、実践的な技術力向上等を行います。

J-PEAKS事業でも、技術力基盤強化を図るとともに、社会変革を成すことができる、知識から新しい価値を作り出せる「ナレッジワーカー」等の育成強化に取り組んでいます。TRもその取り組みのひとつです。次世代技術者であるTRたちの今後の活躍にご期待ください！

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id13464.html



TOPICS

8

三朝国際学生インターンシッププログラム(MISIP)「研究成果発表会・修了式・送別会」を開催

本学高等先鋭研究院の惑星物質研究所において、三朝国際学生インターンシッププログラム(MISIP; Misasa International Student Internship Program)の「研究成果発表会・修了式・送別会」を開催しました。

MISIPは、2005年に第1回を開催して以来、毎年実施されており、今回で17回目です。MISIPは、世界中の意欲ある学部3・4年生および大学院修士課程1・2年生を対象として、同研究所で実際に行われている研究プロジェクトに約6週間にわたって参加することで、最先端の研究活動を実感し、基礎科学を实践する研究者の研究哲学に触れ、研究者・学生間の国境を越えた交流を図ることを目的としています。今回は、7カ国10人のインターンシップ学生たちが集結。6つの研究プロジェクトごと活動し、研究成果発表を行いました。

本学では「惑星科学・宇宙物理分野」を「最重点研究分野」に指定し、若手研究者支援とともに戦略的に支援、研究の厚み強化等を実施しています。MISIPも17回という長い活動期間において、次世代を担う研究者らを世界中から集め育成し、学術の継承や科学技術・イノベーションの活性化等に大きな貢献を果たしています。J-PEAKSでも、強みある研究分野の先鋭化や次世代人材の育成、そして国際的な学術界でのネットワーク構築強化が重要な取組となっています。今後もMISIPの活動、そして本学の取組にご期待ください！



参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id13408.html

TOPICS

9

日本学術会議x岡山大学公開シンポジウム「ワンヘルス～未来を創る世代とともに考える～」を開催

日本学術会議第二部(生命科学)と岡山大学は、公開シンポジウム「ワンヘルス～未来を創る世代とともに考える～」を開催しました。テーマである「ワンヘルス」とは、本学がその実現を使命としている「プラネタリーヘルス」と同様、「人の健康」「動物の健康」「環境の健全性」は互いに密接な関係にあり、一体的に守っていく必要がある、という概念です。J-PEAKSで取り組んでいる「生態系の健康(Planetary Health)、Well-being・人の健康(Human Health)及び安心安全に暮らせる地域の健康(Community Health)の実現」と共通するビジョンです。

はじめに気候変動やヘルスケア、さらにはJ-PEAKSでの取組事例なども含めて紹介。その後のディスカッションでは、狩野光伸副理事・副学長・教授のもと、本学学部生・大学院生も加わり、科学の力で「ワンヘルス」実現のためにできること、未来を創ることなどを考える場となりました。

ワンヘルスは、「持続可能な開発目標(SDGs)」の根底にある考え方のひとつでもあります。本



学は政府の第1回「ジャパンSDGsアワード」特別賞を受賞するなど、先駆けてSDGsからの教育研究活動等を実施しています。今後も大学という学術活動の起点、そして学生らを含めて、社会とともにありたい姿、未来を創り上げていきます。ぜひ地域中核・特色ある研究大学：岡山大学にご期待ください。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id13419.html

TOPICS
10地域中核・特色ある研究大学強化促進事業(J-PEAKS)
をひとつの手段として大学を、社会を変えていく～文部科学省科学技術・学術政策局長らとの意見交換を実施～

文部科学省科学技術・学術政策局の井上諭一局長と産学連携・地域振興課の吉村奏係長、同課の斉藤香歩研修生、研究環境課の田邊綾乃専門職、日本学術振興会(JSPS)経営企画部大学経営支援課の菅原孝介課長らが来学。本学のJ-PEAKSの事業構想や取組状況の意見交換及び視察を行いました。

那須学長から取組の進捗とともに、1大学だけに捉われず、J-PEAKS採択大学などとともに、裾野の広い研究大学群の山脈を作る点等を説明。井上局長らと今後のわが国の中核となる研究大学群の形成等について活発な意見交換、議論を行いました。



参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id13495.html

TOPICS
11

岡山大学、島根大学、香川大学、鳥取大学の4大学医学部が臨床実習教育の協力に関する協定を締結～多様な地域医療ニーズに対応できる医師育成を目指して～

本学、島根大学、香川大学、鳥取大学の4大学は、地域医療の課題解決に貢献できる医師を育成するため、臨床実習教育の協力に関する協定を締結。4大学がそれぞれの強みを活かし連携することで、多様な地域医療ニーズに対応できる医師を育成する、全国的にも珍しい取組です。地域の中核となる研究大学として、高度専門人材たる医師の多様な人材育成を推進します。



参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id13492.html

TOPICS
12

岡山大学発ベンチャー株式会社ハイドロヴィーナスが「U-START UP KANSAI 2024」でNEDO賞を受賞

岡山大学発ベンチャー認定企業・株式会社ハイドロビーナスが、大学発スタートアップ事業展開支援プログラム「U-START UP KANSAI 2024」オープンピッチにおいて、NEDO(国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構)賞を受賞しました。

ハイドロビーナスは、本学学術研究院環境生命自然科学学域(工)の比江島慎二教授が発明した水力発電機「Hydro-VENUS」を活用した事業を展開しています。

本学は、スタートアップ支援を通じて地域や国際社会におけるイノベーション創出に尽力しています。



参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id13485.html

TOPICS
13

文部科学省「大学の世界展開力強化事業」に採択～生殖環境科学を通してWell-beingに寄与する 日欧先駆人材育成プログラムを始動～

本学は文部科学省の令和6年度大学教育再生戦略推進費「大学の世界展開力強化事業～EU諸国等との大学間交流形成支援～」(実施主体：日本学術振興会)に採択されました。

本事業は、国際的に活躍できるグローバル人材の育成と大学教育のグローバル展開力の強化を目指し、高等教育の質の保証を図りながら、日本人学生の海外留学と外国人学生の戦略的受入を行い、国際教育連携の取組を支援するものです。本学は、「生殖環境科学を通してWell-beingに寄与する日欧先駆人材育成プログラム」という事業名のもと、欧州の生殖科学教育研究の中心のひとつであるスペインのムルシア大学、さらにはフランスのトゥールーズ第3ポール・サバティエ大学、ソルボンヌ大学と連携します。

本学は、他大学に先駆けて「生殖補助医療技術教育研究センター」を設置しており、キャリア養成特別コースなどを開講。国立大学からの胚培養士資格保持者輩出数は最多です。さらに「環境」を名称に掲げた環境理工学部などをいち早く設置し、環境科学分野で特色ある教育研究を推進しています。これらの実績をもとに「環境」、「社会」、「生殖」を一体的に学ぶ「生殖環境科学」を軸に、連携大学とともに国際的視点かつ、実地等の教育研究活動を推進し、生殖や医療などの分野のみならず、環境要因や経済社会活動要因など幅広い点を理解し、地球上の生物が直面している生殖環境に関する様々な課題の解決に寄与できる人材を養成します。

J-PEAKSにおいても、研究・イノベーションの叡智で地球と生態系の健康(Planetary Health)、Well-being・人の健康(Human Health)及び安心安全に暮らせる地域の健康(Community Health)の実現と、そのための社会変革を掲げています。今回の生殖環境科学という新しい視点からの国際連携による高度な人材の育成、輩出は、J-PEAKSの取組の推進強化と私たちが目指す社会変革に通じます。どうぞ岡山大学の新しい挑戦にご期待ください。



養成する人材像：生殖環境科学を基礎とし、環境要因と経済社会活動要因をも含む幅広い知識・観点・スキルを実践的に修得し、地球上の生物が直面している生殖環境に関する様々な課題の解決に寄与できる人材の養成(アウトプット)

人類のWell-beingに資する生殖環境科学的知見の発見・蓄積や関連する科学・医療先端技術(遺伝子編集などのバイオ技術やAI等を含む)の開発・適用を推進する日欧ネットワークの形成・強化と研究力向上、共育共創の実現(アウトカム)



参考 https://www.okayama-u.ac.jp/up_load_files/press_r6/press20240926-1.pdf

TOPICS
14

医療的ケア児に対する岡山県内手技統一のための手順書を初めて作成

学術研究院医歯薬学域小児急性疾患学講座の鷺尾洋介教授は、医療的ケア児に対する痰の吸引や経管栄養などの手技を岡山県内で統一するための手順書を初めて作成しました。手順書には、痰の吸引や経管栄養などの医療行為や日常生活での注意点がまとめられています。手順書が広く周知されることにより、医療的ケア児を取り巻く環境等に寄与します。

J-PEAKSでのヘルスケアの推進、そして社会変革を目指す、地域の中核・特色ある研究大学としての役目をしっかりと果たしていきます。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id1281.html



TOPICS
15

企業が研究者にニーズを紹介する「オープンイノベーション MATCH UP～企業から大学へのニーズリバーズピッチ～」を開催

産学連携を促進するため、一般的なピッチとは逆に、企業が研究者・学生・他企業の参加者らに対して、自社のビジョンとそれを実現するための課題やアイデアの発表を行う「オープンイノベーション MATCH UP」を開催しました。

新事業を起こすには新しいアイデアを蓄積しておくことが重要であり、本学では地域中核・特色ある研究大学として、今後もこのような場を多く設け、地域産業界との連携を密にし、かつ活性化に向けて汗をかきます。J-PEAKSの「地域中核」を具現化します。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id13445.html

TOPICS
16

総合技術部の中村有里技術専門職員が「第10回女性技術者育成功労賞」を受賞～女性技術職員のキャリア形成と次世代人材育成の諸活動が高く評価～

本学総合技術部の中村有里技術専門職員が、女性技術者の次世代人材育成等の活動実績が高く評価され、一般社団法人技術同友会「第10回女性技術者育成功労賞」を受賞。学長名代として佐藤法仁副理事・副学長・総合技術部本部長も出席しました。

本学では技術職員らの高度化などを推進しており、J-PEAKSの取組でも実施しています。今回の受賞を取組推進の原動力のひとつとして、より良い技術職員組織の構築、女性技術職員キャリアパス形成等を実施していきます。



参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id13409.html

TOPICS
17

大学院社会文化科学研究科の久保駿貴さんがForbes JAPAN「30 UNDER 30」を受賞

本学大学院社会文化科学研究科(博士前期課程)の久保駿貴さんが、「世界を変える30歳未満」の30人として選出され、Forbes JAPAN「30 UNDER 30」を受賞しました。

久保さんは、2020年に「就職活動の過程が評価される」スカウト型サービス株式会社ABABA(岡山大学発ベンチャー)を創業。現在では1500社、年間5万人の就活生が利用しています。J-PEAKSでは、産業を盛り上げるスタートアップ、ベンチャー創出を強化推進しており、本学もとても嬉しい受賞です！



参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id13428.html

TOPICS
18

大学・研究機関等における研究開発マネジメントに関する好事例及びそのチーム(URAや技術職員、研究者、事務職員など)を表彰する「山本進一記念賞」を創設

本学名誉教授である故 山本進一先生は、本学や名古屋大学(同大学名誉教授)、豊橋技術科学大学等において、研究担当理事・副学長等を歴任され、大学における研究開発マネジメントの体制強化、そして大学の枠をこえて、リサーチ・アドミニストレーター(URA)をはじめとする研究開発マネジメント人材の育成と地位向上等に、先駆的に務められてきました。また、わが国の研究大学の集まりである「研究大学コンソーシアム(RUC)」における全体会議の初代議長として、さらにはURAスキル認定機構の初代機構長として、文部科学省などの中央官庁との対話の中で、URA等の制度確立、大学での雇用と地位向上に向けた様々な施策に対して、強いリーダーシップをとられてきました。

この山本先生の長年にわたるご功績を称えるとともに、各大学・研究機関等における研究開発マネジメントの実例等を中心に、組織の枠をこえて他大学・研究機関等にも参考となる好事例及びそのチーム(URAや技術職員、研究者、事務職員など)を表彰する「山本進一記念賞」をRUCとともに、9月26日に創設しました(第1回公募期間：～2024年11月29日(金))。

本賞の創設は、本学のJ-PEAKSの取組のひとつであり、賞の組成段階から山本先生にマネジメント指導を受けた那須保友学長や佐藤法仁副理事・副学長・上級URAらが関与。本賞の表彰委員会事務局もRUCと本学の共同事務局であり、さらには表彰委員会の委員長も佐藤副理事・副学長・上級URAが務めます。

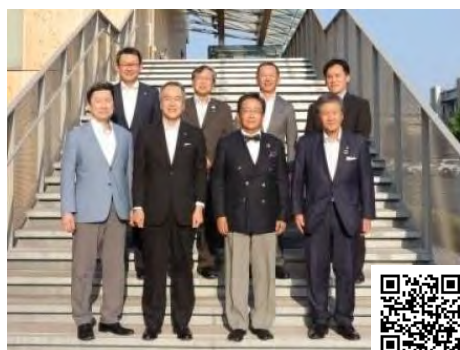
本賞によって、大学・研究機関等における研究開発マネジメントの他に類を見ない先駆的な取り組み、そのチームにスポットを当て、モチベーションや学内外の認知度等をさらに向上させるとともに、組織の研究力強化、ひいてはわが国の研究力強化につながります。J-PEAKSの取組であるだけではなく、山本先生が成してきたこと、成そうとされていた想いをしっかりと引継ぎ、本賞が価値あるものとなるように、皆さんとともに育てて行きます。

参考 <https://www.ruconsortium.jp/efforts/yamamoto/koubo2024.html>

TOPICS
19

国立六大学学長会議・国立六大学連携コンソーシアム協議会合同会議を開催

第65回国立六大学学長会議・第41回国立六大学連携コンソーシアム協議会合同会議を本学で開催しました。同会議は、旧官立の医科大学を前身校とする千葉大学、新潟大学、金沢大学、岡山大学、長崎大学および熊本大学で構成されており、国際、教育、研究および広報の各分野においてさまざまな連携事業に取り組んでいます。



今回、文部科学省の森友浩史大臣官房審議官(高等教育局担当)から「高等教育を取り巻く最近の動向等について」の話題提供とともに、博士課程人材やグローバル人材の育成に係る支援のあり方や大学院での研究力強化等の課題、さらには大学病院における研究力低下や働き方改革への対応等の活発な意見交換、議論が行われました。

今後も国立六大学での連携から国立大学の新しい未来などを開拓していきます。



国立六大学
連携コンソーシアム

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id13491.html

TOPICS
20高等先鋭研究院惑星物質研究所の石井貴之准教授が
「日本鉱物科学会研究奨励賞」を受賞

石井貴之准教授が、日本鉱物科学会2024年度年会において「2023年度日本鉱物科学会研究奨励賞」を受賞しました。石井准教授は、最先端の高圧実験技術を駆使し、地球マントル鉱物・岩石の高温高圧相平衡関係や高圧鉱物中の水に関する研究を行い、数多くのインパクトの高い成果を挙げていることが認められ今回の受賞となりました。

本学では「惑星科学・宇宙物理分野」を「最重点研究分野」に指定し、若手研究者支援とともに戦略的に研究の厚み強化等を実施しています。今後も石井准教授らの研究活動等にご期待ください。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id13493.html

TOPICS
21

岡山大学DS部参画事業が経済産業省「Web3.0・ブロックチェーンを活用したデジタル公共財等構築実証事業」に採択～Web3.0型地方創生・関係人口創出を推進～

野上保之副理事・教授とDS（データサイエンス）部が参画する一般社団法人Hiroshima Web3協会が、経済産業省「Web3.0・ブロックチェーンを活用したデジタル公共財等構築実証事業」に採択されました。本事業は、Web3.0・ブロックチェーン技術の社会実装・社会受容を進めるため、産業や地域の課題解決に資する公共性の高いテーマを設定。これらの技術を活用したデジタル公共財等の構築に係る実証を支援します。

今後、島根県海士町および広島県三原市において分散型自律組織（DAO）の構築・運営の実証事業の実施と、それを通じた地方創生・関係人口創出事業のためのガイドライン・事例集等の策定を行います。これは、J-PEAKSの「地域中核」を具現化する取組でもあります。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id13397.html

TOPICS
22

総合技術部の小林元成技術専門職員が「有機微量分析研究会・創立70周年特別功労賞」を受賞～分析分野における技術力の貢献が高く評価～

本学総合技術部の小林元成技術専門職員が「有機微量分析研究会・創立70周年特別功労賞」を受賞しました。小林技術専門職員は、日本分析化学会有機微量研究会標準試料小委員会より標準試料の検定の委嘱を受け、元素分析装置により標準試料を測定して、そのデータを提出しています。これらはわが国の研究基盤を支えるなくてはならないものであるとともに、長年のノウハウと高い技術力を必要とします。

本学のJ-PEAKS事業においても、技術職員の技術の見える化などの「高度化」を精力的に取り組んでいます。



参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id13440.html

岡山大学「大学院修学支援制度(2024年後期)」認定式を挙行～大学職員の高度化を強化促進し、ナレッジワーカーとしての博士人材の育成・活用へ～

本年度から実施する岡山大学「大学院修学支援制度(2024年後期)」認定式を、マスコミ各社が集まる中、挙行了しました。本制度は、岡山大学長期ビジョン2050実現のために、職員(事務職員、技術職員、図書職員など)の高度化を図るひとつの手段として実施。本学大学院を対象に修士と博士の学位取得を支援するものです。今回、博士号取得を目指す総合技術部の朝倉真実技術専門職員と同部の小林智瑛技術専門職員の2名に対して認定が行われました。



大学として博士人材を育成するだけでなく、活用することも重要であり、今後、キャリアパスを整えること、そして大学院改革の起点ともなる重要な取組のひとつです。J-PEAKS採択大学として、また研究ファーストを掲げる研究大学として、育成と活用の両面、そしてその場(大学院と大学法人組織)の改革を戦略的、かつスピード感を持って進めます。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id13518.html



岡山大学「大学院修学支援制度」

事務職員、技術職員の高度化の点で、職員に学位(修士、博士)取得支援制度を本年度から開始。人材育成を学位取得という点に転換すること、さらに学位を取りに行くことを仕事の一部としても捉えることで、意識と行動変容を加速へ。

大学職員の「高度化」を強化推進

- ①本年度は、まず技術職員を対象として、博士号を取得する制度を開始。対象者の現在の業務や選定方法、研究計画、実際の研究活動などを運用しながら精査し、最適化させる。
- ②来年度は、事務職員、図書職員を含めた職員を対象として拡大運用へ。修士号取得も対象に。
 - ・大学院修学に係る費用(入学料、標準修業年限に係る授業料その他入学及び履修に必要な納付金)は、**全額法人が負担**する。
 - ・授業科目の履修のため勤務時間を割くときは、当該時間について**職務専念義務を免除**する。
 - ・制度適用職員の健康及び福祉を確保するため、**適正な就業体制を設定**する。
 - ・制度に手を挙げる際に**上司の許可等は不要**。また、修学支援期間中は人事異動の対象としない。
 - ・出願(研究室選定)や研究計画等の準備において、**URAの相談サポートを得る**ことができる。
 - ・博士人材としての職員のキャリアパスを再構築することで、**大学法人組織に新たな変化**を。 など

岡山大学「大学院修学支援制度」ー ナレッジワーカーを社会へ輩出する組織へ

岡山大学内でナレッジワーカーを育成し、それをため込むのではなく、広く地域、社会へ。そして、その運用において組織自体もさまざまな「変化」を。



大学院の「新(真)」改革が必要

「研究者、大学教員を育てる」という大学院(特に博士課程)の従来の視点を廃し、「ナレッジワーカーを育て、実践できる人材を輩出する」などの形へ。

- ・学問・学術分野の「習慣」、「制度」などを「当たり前」として捉えず、時代に即した柔軟な変化・適応と新たな価値を生み出す取組へ。
- ・トランスファラブルスキル、コンサルティングスキル、プロジェクトマネジメントスキル等の取得へ。

意識改革とそのため
のさまざまな制度

大学院修学支援制度を運用する中で、大学院の「新(真)」改革も行う！



岡山大学
OKAYAMA UNIVERSITY



TOPICS
24

高度な知識と未来思考で社会変革を導くナレッジワーカーとして博士人材の育成へ～OU-SPRING 2024 Summer Research Symposiumを開催～

「次世代研究者挑戦的研究プログラム（SPRING）」の採択を受け本学が実施している岡山大学次世代研究者挑戦的研究プログラム（OU-SPRING）の認定者に対して、トランスファラブルスキルや異分野融合研究能力の強化促進、人材交流等を目的としたシンポジウムを開催しました。

ポスターセッションでは、認定者らが各自の研究についてプレゼンテーションを行い、他の認定者や来場した学生、教職員らと活発な議論を交わしました。

本学は大学院生を「学生」ではなく「研究者」として取り扱っており、今後も全学を挙げて、新たな研究・イノベーションを創出する研究者等の育成を戦略的に実施します。

次世代研究者挑戦的研究プログラム
Support for Pioneering Research Initiated by the Next Generation



参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id13501.html

イチオシの研究設備

サブミクロン領域同位体顕微鏡

本学高等先鋭研究院の惑星物質研究所にある高分解能型二次イオン質量分析計（Cameca ims-1280HR）は、収束したイオンビーム（ O^- 、 Cs^+ ）を平滑試料面に照射することでサブミクロンレベルの空間分解能で分析します。照射によって試料からたたき出された核種イオンは、二重収束型の質量分析部に導入され、質量によって分離したイオン数をカウントすることで、極微小領域での同位体存在比や微量元素濃度を決定することができます。

本機器の分析は、試料マトリックスの特性を合わせた標準試料が必須です。本機器は惑星物質研究所の特徴である「地球惑星物質総合解析システム」（CASTEM）の一部として運用されており、同システムの無機クリーンルームや各種質量分析装置によって分析ターゲットに適応した標準試料を準備するなどの充実した体制が完備されています。

探査機「はやぶさ2」によって地球に帰還した小惑星リュウグウの解析では、本機器を使用して水素・窒素・炭素・酸素同位体分析に加え、リュウグウ試料を形成した温度環境推定やその年代についての貴重な情報をもたらしました。また、岩石鉱物といった固体無機試料に加え、生体試料の2次元微量元素分布の測定などにも用いられており、機器共用によって今後さらに広範な応用研究に活用できると期待しています。



本学でのJ-PEAKSの取組では、大型分析装置等の中国・四国の機器共用ネットワーク拠点の構築や、先端設備の整備、技術人材の高度化等を通じて、イノベーション創出の「知」と「技」のメッカを目指します。ぜひ岡山大学の挑戦にご期待ください！



本装置や共同利用の設備に関するお問い合わせはこちら：cfp@okayama-u.ac.jp

参考 <https://corefacility-potal.fsp.okayama-u.ac.jp/equipment/view/745>

